



あなたの応援が、
復興への
一歩になる。

IPPO IPPON NIPPON プロジェクト

ニュースレター (2012.1.5 第1号)

職業高校支援

津波で被災した宮城県の3校にバスを寄贈しました

IPPO IPPON NIPPON プロジェクトは、東日本大震災により大きな被害を受けた岩手県、宮城県、福島県の3県に対し、将来を担う若者を支援するため、被災した職業高校に実習機材の提供を行っています。

宮城県農業高校（名取市）は津波により校舎が使用不能となったため、現在、県農業・園芸総合研究所内に設置した仮設校舎にて授業を行っていますが、実習の際には、遠方の農業施設やグラウンドまで移動して授業を行っています。

本プロジェクト第1期活動（2011年10月～2012年2月）では、同校の実習授業を支援するため、去る12月6日にバスを寄贈しました。

当日は全国経済同友会代表幹事円卓会議の開催に併せ、宮城県を訪問していた各地経済同友会代表幹事とともに、長谷川閑史、滝茂夫両共同委員長が同校を訪

問し、白石喜久夫校長に大型バス（52人乗り）と目録を贈呈しました。

今回寄贈したバスは翌日から使用され、実習を行う農場への移動や部活動などの様々な用途に活用されています。



（販売実習に向かう生徒たち）

翌7日には、同じく津波により校舎が使用不能になり、仮設校舎で授業を実施している宮城県水産高校（石巻市）、気仙沼向洋高校（気仙沼市）の両校に、須佐尚康運営委員（仙台経済同友会 常任幹事）が訪問し、それぞれバス1台（46人乗り）を寄贈しました。



（バス贈呈の様子：左 宮城県農業高校 白石校長、右 滝共同委員長）



（宮城県水産高校、気仙沼向洋高校にもバスを寄贈しました）

職業高校支援

福島県の2校に農業実習機材や水上実習機材を寄贈しました

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトは、磐城農業高校（いわき市）に対し、トラクターやコンバイン、鶏舎設備一式などの農業実習機材の寄贈を進めています。

同校は4月11日に発生した福島県浜通りを震源とする M7.0 の余震により、校舎が大きく損壊し、内部にあった機材が使用不能となりました。現在は仮設校舎にて授業を実施していますが、実習機材が不足しているため、11月24日より3回に分けて実習機材の寄贈を進めています。



今まで以上に実習がスムーズに行うことができるようになりました。本当にありがとうございました。震災に負けずに頑張りたいと思います。
(食品流通科3年 馬目咲季さん、蛭田真依さん)



皆様へ。この度は、大震災によって、稲作に必要な実習棟や機械が被災しこれからの米作りを

きらめておりましたが、コンバインや乾燥機を寄贈していただきありがとうございました。皆様の絆に答えられる様、おいしいお米作りに取り組んでいきたいと思ひます。

(園芸科3年 根本高宏さん・作物専攻班一同)

また、同じくいわき海星高校にも、教習艇や和船用船外機、ヨット、端艇をはじめとする実習機材の寄贈を進めています。

同校は津波により校舎1階部分が浸水し、沿岸にあった機材置き場に保管していた実習機材が失われてしまいました。現在は仮設校舎にて授業を行っていますが、県内唯一の水産系高校でありながら、機材不足のために水上実習ができない状態でした。今回、本プロジェクトが実習機材を寄贈したことにより、年初より水上実習が再開できるとのことです。

11月25日には、高山隆運営委員（福島経済同友会 事務局長）が両校を訪問し、目録の贈呈を行いました。



(いわき海星高校に教習艇を寄贈しました)

職業高校支援

岩手県沿岸部の6校に実習機材を寄贈しました

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトは、岩手県沿岸部の職業高校6校にも実習機材の寄贈を進めています。

日本で唯一、専門的に潜水土育成を行っている種市高校海洋開発科は、沿岸の実習機材置き場が津波で被害を受け、潜水実習に支障をきたしていました。本プロジェクトでは、潜水実習に必要なウェットスーツやヘルメット、水中カメラなどを寄贈しました。



(種市高校に寄贈した水中撮影用カメラ)

(前略)今、自分たちは、将来立派なダイバーになれるよう、毎日勉強に励んでいます。週一回ある実習では、潜水の技術を学び、ヘルメット潜水、スクーバとともに先生方の指導を受け、技術を学び成長に役立っています。

私は将来、高校で学んだ事を活かして、潜水会社に就職して日本に貢献できるようになりたいと思っています。そのためには、今回いただいた器材を使用させていただき、多くの技術を身につけ、将来立派なダイバーになりたいと思います(後略)

(海洋開発科2年 木村祐介さん)

(前略)私には、将来、水族館で働くという夢があります。そのために、実習はもちろん、日々の生活をしっかりと充実させながら、伝統と長い歴史のあるこの種市高等学校で安心して授業が受けられるのも多くの方々のご支援があるからこそです。ご支援いただいた器材を使用して、将来に必要な技術や知識を身につけたいと思っています(後略)

(海洋開発科2年 滝 瑠稀さん)

また、調理師を養成している大船渡東高校食物文化科には、11月16日に実習用の食器類1,800点余りを寄贈しました。同校は津波の被害はなかったものの、地震により食器類が破損し調理実習に支障をきたしていましたが、今回の寄贈により、早速、実習を再開されました。



(前略)私達は西洋料理を学んでいます。震災後は食器が揃わない状態で調理実習をしていました。現在では、揃いのいただいたスープカップやティーカップなどを使って実習しています。毎回、次はどんな食器を使うことが出来るのか、とても楽しみにしながら実習をしています。

今回の地震で食器が割れずにそのままだったら、食器の大切さをあまりわからずに過ごしていたかもしれません。食器を寄付していただいたおかげで、また一つ大切なことを学ぶことができました。食器を寄付していただいた IPPO IPPO NIPPON プロジェクトの皆様には、とても感謝しています。この食器は、今後何十年と使っていけるよう大切にしていきたいです。そして、このあたたかいご支援にこたえるためにも、調理の技術をさらに向上させていきたいと思います。本当にありがとうございました。

(食物文化科2年 白井沙登子さん)

なお、岩手県内では、上記2校の他、高田高校海洋システム科、釜石商工高校、宮古工業高校、久慈工業高校にも実習機材の寄贈を進めています。11月28日~30日にかけて、久慈達也運営委員(岩手経済同友会 幹事)らが各校を訪問し、目録を贈呈いたしました。



IPPO IPPO NIPPON プロジェクト第 1 期活動
～ 進捗状況のご報告～

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトは、各地に甚大な被害をもたらした東日本大震災からの復興を支援するため、全国の経済同友会の皆様と連携し、2011 年 7 月 14 日に発足いたしました。被災地に所在する岩手経済同友会、仙台経済同友会、福島経済同友会の皆様の協力をいただきながら、将来を担う若者たちへきめ細かいサポートを行うべく、支援内容を検討し、10 月 11 日より第 1 期活動を開始いたしました。

これまで（2011 年 12 月 26 日現在）に、法人 189 社・個人 18 名にご参加をいただいております。皆様より合計 3 億 3,723 万 8,947 円のご厚志を頂戴しております。

皆様より頂戴した寄附金は、すでに提供を進めている被災した職業高校への実習機材の支援に加え、1 月末日の寄附入金期間の満了を待って、震災で保護者を亡くされた子どもたちの生活・就学支援を行う「いわての学び希望基金」「東日本大震災みやぎこども育英募金」、さらに地域の人材育成の要である国立大学（岩手大学三陸地域復興センター、東北大学災害科学関係人材育成事業）へもお届けする予定であり、全額を被災地の復興に向けて活用させていただきます。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトでは、これからもご参加企業・個人の皆様、被災地に所在する岩手経済同友会、仙台経済同友会、福島経済同友会をはじめとする全国の経済同友会と力を合わせ、参加企業や個人の応援が復興への一歩になり、被災地が真の復興に向けて“一歩一歩”進んでいくように第 2 期、第 3 期と活動を展開してまいります。

引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト
共同委員長 長谷川 閑 史
滝 茂 夫